

令和3年度第1回外部評価委員の意見等

日時：令和3年6月15日（火）15:30～16:30

場所：講堂

- バンカーズファームの活動がスタートし、その関係で、機械メーカーの研修会で、最新の技術革新に触れる機会があった。効率をあげ、収益性を高めることも、農業分野では大切な視点である。
→ 農大では、JGAPをとおして、作業の効率化に取り組んでいる。
- 農大の卒業生は、農業法人への就業者が多いが、法人からの求人で男女に違いがあるか？
- 女性の就業については、オペレーターとして活躍している方もおり、意欲的な方が多い印象である。
→ 求人にも男女による違いは特になく、女性を希望される場合もある。
- 以前、農大から研修を受け入れたことがあり、就業にも意欲的だったが、田舎の不便さ等の理由、就業に至らなかったことがある。
普通作を主体とした法人が多い中で、普通作栽培の経験が無い場合は、就業後3年程度の実務経験が必要となる。拠点整備に合わせて普通作の学科ができることに期待している。
- 普通作の基礎を学ばしてほしい。また、機会整備の知識も有していると良い。
→ 令和5年の知と技の拠点形成に向けて、土地利用学科（仮称）を新設し、即戦力人材の育成のためのカリキュラムの充実に取り組んでいる。
- 現場では、狩猟免許の需要が高まっている。農大では狩猟免許を取得できるか？
→ 例年8月に実施している。
- 県内の農業法人では、最新の機械の導入が進んでいる。農大でも新しい機械を揃えると、効果的な学修が展開できるのでは。
→ 拠点形成に合わせて、整備を計画している。

- 卒業生の中に、口数が少なく、周囲との交流が苦手な学生を見受けることがある。自分から周りの人と関わっていく積極性がほしい。
 - インターンシップや外部講師の講義等をとおして、今後も学生のコミュニケーション能力の向上に努める。

- 学校評価書について、目標の見直し・改善を行っていることは素晴らしいと思う。
 - 重点目標①の入学生の確保について、今年度新たに取り組んでいることはあるか？農業系高校からの入学者は一定数確保できているようであり、普通高校への学生募集を強化すべきではないか。
 - 特段、新しい取組は無いが、従来の募集活動をさらに充実させていく。

- 重点目標⑦の効率的な業務運営体制の構築に関して、山口農業高校では、畜産部門の業務改善が難しく、時間外勤務が多い。農大での業務改善に関する実践を参考にしたい。
 - 農大でも同様に課題である。今後、改善に努めたい。

- 山口県の農業は、少量多品目という特徴がある。農業高校生にも県内の産地を紹介したいが、可能か？
 - 従来から、産地に関する学習は取り入れている。今後も、継続して実施していきたい。良い事例があれば紹介いただきたい。(農業高校回答)